

プロ野球独立リーグ選手のセカンドキャリアに関する考察

1220551 政門笑太

指導教員 前田和範

研究背景

現在、日本の野球界では日本野球機構（NPB）がトップに位置付けられており、NPB への入団経路の中でも特に過酷な環境であると言われているのが独立リーグである。NPB を含め、選手のセカンドキャリアに関する課題が叫ばれている中、過去に、トップアスリートやトップリーグ所属選手のセカンドキャリアに関する研究は多くあるものの、独立リーグのようなトップリーグの下部組織でプレーする選手のセカンドキャリアに関する知見は十分に整理されていない。

研究目的

本研究では、これまでの独立リーグのセカンドキャリア支援、独立リーグ選手のセカンドキャリアに関する現状や知見を整理する。また、独立リーグ選手に焦点を当て、どのような思考の下、どのようなセカンドキャリアを歩んでいきたいのかを若手 NPB 選手とも比較しながら明らかにする。これらを踏まえ、独立リーグ選手のセカンドキャリアがより良いものになるように提案を行うことを目的とする。

研究方法

独立リーグのセカンドキャリア支援に関する現状に関しては、論文や書籍、ウェブ資料などの資料分析により記述を抜粋して整理する。また、独立リーグに所属している選手のセカンドキャリアの現状については、アンケート調査を行った。

分析結果

企業と提携しているリーグが増えており、選手と企業が結びつきやすい環境が整ってきている。選手の中には、そうした支援を活用し、様々なセカンドキャリアに進んでいることが明らかになった。一方で、選手としては、独立リーグでプレーすることには満足しているものの、セカンドキャリア支援には満足していないということが分かった。

考察・結論

選手のセカンドキャリア支援の体制は整ってきているものの、選手は満足していない。このことから、本研究では、選手が独立リーグでプレーしてきたことが現状以上の価値になるような仕組みを作ることと、企業チームを持つ企業等とのコネクションを強化することを提案する。これらの支援により、独立リーグを引退した後のセカンドキャリアがより一層、充実したものになる。